



# 営農NEWS



## 土壌センチュウ類の被害発生と防除対策

土壌中には多くのセンチュウ類が生存していますが、そのうち農作物に被害を与えるセンチュウ類としては、ネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウ、シストセンチュウの3種があります。このうち、シストセンチュウは、ダイズやジャガイモ等に寄生しますが、本県ではダイズ等で被害が問題になります。

ここでは、主に野菜類等を中心に被害を生じる、ネコブセンチュウとネグサレセンチュウについて紹介します。

### ＜ネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウの作物寄生性と被害様相＞

**ネコブセンチュウ**が寄生した多くの作物の根は、部分的に肥大してネコブを形成します。特に、ナス科のナスやトマト、ピーマン、ウリ科のキュウリ、メロン、スイカなどでは、数珠状にネコブが形成され、多発生するとコブ同士が融合して大きく肥大したネコブとなることがあります。このようにネコブが生じると、地上部はしおれて萎凋し、激しい場合は枯死に至ります。根菜類のニンジンなどは、ネコブを部分的に形成しますが、ゴボウではコブの形成が少なく、岐根や短根の被害となります。また、カンショでは、塊根に亀裂やくびれを生じて、著しく商品価値を減じます。

**ネグサレセンチュウ**が寄生しても、多くの作物は地上部に明瞭な病徴を生じませんが、レタスやイチゴなどでは根が次第に腐敗、脱落しますので、多発生すると生育不良や萎凋を生じ、大きな減収となります。根菜類のゴボウ、ニンジン、ダイコンなどでは、生育初期に直根が加害されると岐根や短根となります。また、根表皮に黒～褐色の斑点症状を生じ、著しく商品価値を減じます。

表1 主な作物における土壌センチュウの寄生性

被害	ネコブセンチュウ類	ネグサレセンチュウ類
多い	ナス、トマト、ピーマン、カンショ、ナガイモ、ニンジン、キュウリ、メロン、スイカ、カボチャ、ウリ、ホウレンソウ	レタス、ゴボウ、ニンジン、ミツバ、ネギ、タマネギ
やや多い	ショウガ、バレイショ、トウモロコシ、ダイズ、アズキ、ハクサイ、キャベツ	トマト、イチゴ、ダイコン、キュウリ、ユウガオ、カボチャ、バレイショ、ダイズ、アズキ

注) ハクサイやキャベツなどアブラナ科作物では、根にコブを着生する類似の症状として、病原菌による根こぶ病が主に問題となります。

### ＜防除対策のポイント＞

- 1) 連作を避け、センチュウの寄生や増殖しにくい作物との輪作を行いましょう。
- 2) 収穫後には、被害残渣をそのままにせず、出来るだけ丁寧に持ち出し、圃場外で腐熟化などの処分をします。
- 3) 堆肥や腐熟促進剤等を投入して、未熟有機物の腐熟化を促進し、土壌改善、土づくりに努めましよう。
- 4) 抵抗性品種や台木、またはセンチュウ対抗植物を積極的に導入しましよう。
- 5) ハウス等の施設栽培では、還元型太陽熱土壌消毒を導入しましよう。
- 6) 土壌くん蒸剤や粒状センチュウ剤の土壌処理を行いましよう（土壌くん蒸剤の効果的な処理法については、営農ニュースNo.2242号 平成26年1月10日を参照）。

表2 主な対抗植物の種類と対象センチュウ

	植物名（品種名）	ネコブセンチュウ			ネグサレセンチュウ	
		サツマ	キタ	アレナリア	ミナミ	キタ
イネ科	エンバク（ハイオーツ、ネグサレタイジ、ニューオーツなど）		○			◎
	ギニアグラス（ナツカゼ、ソイルクリーンなど）	◎	◎		○	○
	ソルゴー（つちたろう など）	○	○	○		
マメ科	クロタラリア スペクタビリス（ネマキング、ネマクリーンなど）	◎	◎	◎	◎	
	クロタラリア ジュンセア（コブトリソウ、ネマコロリなど）	◎				
	エビスグサ					◎
キク科	マリーゴールド（セントール、アフリカントール、マサイなど）	○	○	○	◎	◎

注) 1. 対抗植物としての能力は、◎：効果が高い、○：効果あり として表示しましたが、品種間により抑制効果に大きな相違がありますので、あくまでも目安としてください。

2. センチュウ名は、サツマ：サツマイモネコブセンチュウ、キタ：キタネコブまたはネグサレセンチュウ、アレナリア：アレナリアネコブセンチュウ、ミナミ：ミナミネグサレセンチュウを略して表示しました。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040